# 生

上りは緩やかに
もどかしく苦しげに
下りは一気に
倒れる如く力尽きて
そして全ての道は重くけだるく

その大なる質量をむんずと担ぎ上げ
放り投げては拾い
放り投げては拾い
食い気も失せる妖しい春の匂い
むせ返る道の延々と

しゃぶるほどに嘲笑うも
頑なな単調の連続には響かず
侮蔑も悲歎も、そして諦めさえも
全ては馬鹿げた小ささよ
知らぬむりの冷徹な時の流れのみ

おお、己は何処へ行くのだ
おお、乾からびた人生よ
唯、道に従いて歩くのみよ
思う存分無駄骨折って
俺は生きてやる、生き抜いてやる

(1985.1.19)